

平成29年度  
全国学力・学習状況調査の  
結果について



平成 29 年 12 月

海老名市立有鹿小学校

## 目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
学校生活以外の児童の現状	P. 5



## 資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。  
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

### 【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

### 【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

### 【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネット

### 【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

### 【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

### 【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

# 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

## ◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
  - ・ 中学校第3学年

## ◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

### 【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

### 【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

## ◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は  
こちらから



# 国語に関する調査結果

## 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

### 《優れている所》

- 「話す・聞く」能力が優れています。  
互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、話し合えることができます。
- 「読む」能力が優れています。  
目的に応じて、与えられた情報から必要な情報を取り出して、読むことができます。
- ことわざの意味を理解して表現することがよくできています。

### 《努力を要する所》

- 「書く」能力がもう少しです。  
手紙の構成を理解し、目的や意図に応じて適切なものを選択することに課題が見られます。
- 「言語についての知識・理解」がもう少しです。  
漢字を、「正しく読むこと」、「正しく書くこと」に課題が見られます。

## 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

### 《優れている所》

- 「話す・聞く」能力が優れています。  
目的に応じて、適切な言葉遣いを考えたり、話の構成を工夫して話したりすることができます。
- 「書く」能力が優れています。  
目的に応じて、文章全体の構成を考え、必要な内容を整理して書くことができます。



### 《努力を要する所》

- 目的や意図に応じて、話の構成や内容の工夫をして話すことはできていますが、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことはもう少しです。
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られます。

## これまでの取組から

- 物語や説明文を読んだ後に感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導の充実を図ってきました。
- 漢字の読み書きが正しくできるように、また、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身につくように指導してきました。

## 今後の具体的な取組について

- 漢字の確実な習得を目指すために、漢字を字形に注意しながら繰り返し書いて練習するだけでなく、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように、継続して指導していきます。
- 場に応じた適切な言葉遣いで話せるようにすることを継続するとともに、声量や速度、抑揚や間の取り方、改まった言葉や丁寧な言葉、敬体と常体との使い分けなど、その場に応じた最も適切な表現の仕方について、繰り返し指導していきます。

# 算数に関する調査結果

## 算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「(整数) × (小数) の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を理解すること」に優れています。  
60 × 0.4 を 60 × 4 を基にして考えるときの正しい積の求め方についてよく理解できていました。
- 整数の乗法「(3位数) × (2位数)」の計算の技能に優れています。  
123 × 52 の基本的な計算の仕方を理解し、確実に計算をすることができていました。

《努力を要する所》

- 「商を分数で表すこと」がもう少しです。  
整数の除法の結果は、分数を用いると一つの数に表すことができることについての理解に課題が見られました。
- 「資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めること」がもう少しです。  
合計欄の意味を理解し、資料を的確に分類整理することに課題が見られました。

## 算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と計算の領域の数学的な考え方」に優れています。  
示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することがよくできていました。
- 示された条件を基に、適切な式を立てることは、概ねよくできていました。

《努力を要する所》

- 測定値を平均する考えを用いて適切に判断したり、示された方法を解釈・表現したりすることがもう少しです。  
飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式の理解や、仮の平均を用いた考えを解釈し示された数値を基準とした場合の平均の求め方に課題が見られました。
- 日常生活の事象を表やグラフの特徴をもとに考察したり表現したりすることがもう少しです。  
二次元表の特徴の理解を基に論理的に考察することや目的に応じて適切なグラフを選択し表現することに課題が見られました。

## これまでの取組から

- 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、朝自習の時間を活用した「わくわく算数タイム」や授業時間にきめ細かい指導を行ってきました。
- 数学的に表現された考えを正しく解釈できるように、式の意味を説明し合ったり、図形を考察し結果を説明し合ったりする学習活動の充実を図ってきました。

## 今後の具体的な取組について

- 平均の問題で、「2回目の記録を除いて平均を求めます。」の「除く」を「0」という1つの記録として考えてしまった誤答や「割合」を表すグラフを選択する問題で、「量の大小関係」に着目してしまった誤答などがありました。数学的な考え方や自分の考えを記述する力は、育ってきていますので、言葉の意味や題意を正確にとらえる力を伸ばせるよう努めていきたいと思えます。同時に、振り返る活動に力を入れ、知識・技能の定着や課題解決を通して自信を積み重ねることで、算数への意欲を高めていきたいと思えます。



# 児童質問紙の結果より

## 学習について

### 《よかった所》

- 「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は約90%で、全国平均より約7ポイント高いです。
- 「家で学校の授業の復習をしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は64%で、全国平均より約10ポイント高いです。

### 《課題と思われるところ》

- 「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は73%で、全国平均より約5ポイント低いです。

## 生活について

### 《よかった所》

- 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか」に対して、「話している」「どちらかといえば話している」と回答した児童は86%で、全国平均より約8ポイント高いです。普段の出来事など、何でも話せる家庭の雰囲気により、児童に安心感が生まれ、それが様々な意欲につながります。
- 「学校のきまりを守っていますか」に対して、「守れている」「どちらかといえば守れている」と回答した児童は99%で、とても高いです。規範意識が高く、上級生として、下級生の見本となっています。

### 《課題と思われるところ》

- 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たり3時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする」と回答した児童は31%で、中には「4時間以上」の児童もいます。生活リズムの見直しが必要です。



## これまでの取組から

- 学年×10分を目安に、家庭学習を毎日の習慣として行っている児童が増えてきています。家庭学習がその日の授業の振り返りや復習につながっています。家庭の協力をいただきながら、指導してきた成果です。
- 学校内のルールを守れている児童が多いです。「有鹿っ子の約束」として全ての学年で統一して指導をしてきました。「みんながすごしやすい学校」を目指して、今後も指導を続けていきます。

## 今後の具体的な取組について

- 課題に対して積極的に取り組める児童がまだ少ないです。自主的・自発的に取り組めるように、目的意識をもたせ、取り組み方を示し、定着できるようにしていきます。
- テレビやゲーム機、スマートフォン等の使用については、健康的な生活リズムにも影響するので、学校と家庭で協力しながら指導していく必要があります。

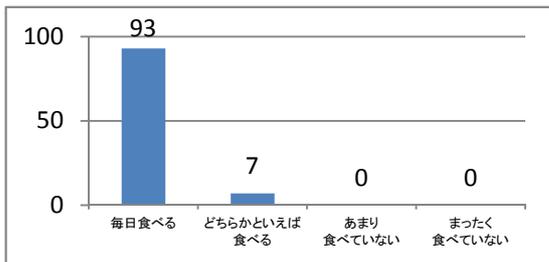
# 学校生活以外の児童の現状

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「学校生活以外の児童の現状」をまとめました。ご家庭でぜひ話題にさせていただきたいと思います。

## 1 1日の元気の源。朝ごはんを食べましょう。

朝の元気な挨拶やきびきびした行動に欠かせない栄養を、朝ごはんできちんと摂取しましょう。朝ごはんの内容も大切です。

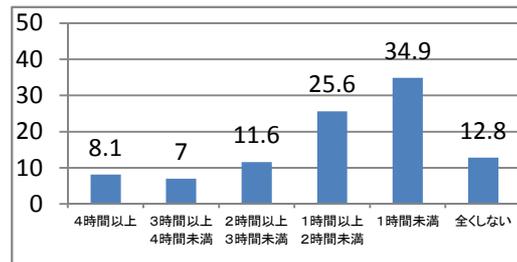
朝食を毎日食べていますか。



## 2 時間の使い方を見直し、ルールを決めましょう。

家庭でのルールをしっかりと決め、やるべきことに計画的に取り組んでいきましょう。

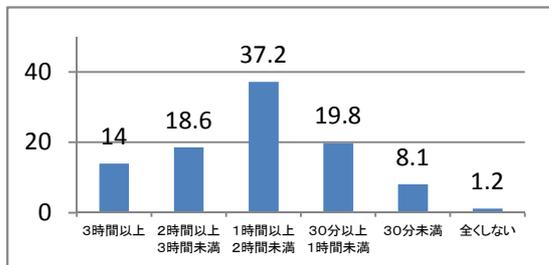
普段1日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



## 3 自分で計画を立てて、学習に取り組みましょう。

学年×10分の家庭学習を目安に、毎日の学習を習慣化しましょう。

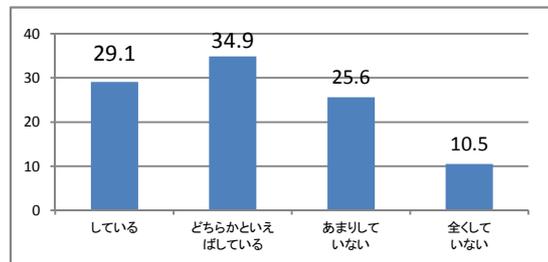
普段、1日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか。



## 4 翌日の授業に活用できる学習をしましょう。

宿題でおしまいではなく、次の学習の下地になる復習や予習に取り組みましょう。

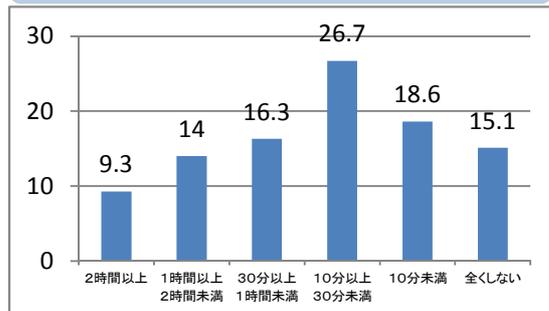
家で、学校の授業の復習をしていますか。



## 5 いろいろな本をたくさん読みましょう。

読書は、授業だけでは得られない知識を身につけるとともに、感性を豊かにします。いろいろな本を読みましょう。

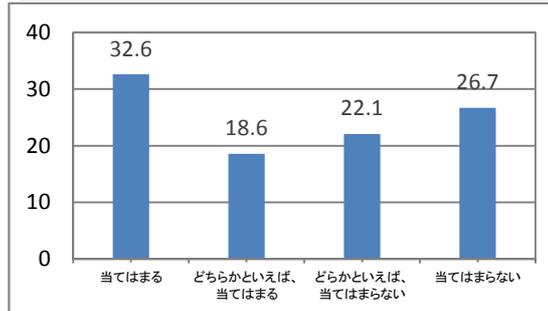
普段、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしていますか。



## 6 地域の行事に積極的に参加しましょう。

地域の方々と関わり合うのはとても大切な時間です。積極的に参加して、地域の方々に顔を覚えてもらいましょう。

今住んでいる地域の行事に参加していますか。





海老名市立有鹿小学校